

お茶の水女子大学 大学院、センター 研究紹介集 2025



～未来につなぐ～

Since 1875

創立150周年

Ochanomizu University

～ 大学院、センター 目次 ～

役職	氏名	タイトル	頁
その他（大学院、センター）			
教授	三宅 秀彦	遺伝医療の社会実装へ、医療のしくみをデザインする	1
講師	佐々木 元子	認定遺伝カウンセラーによるヒトの遺伝に関する教育啓発	2
講師	畠山 由香子	ピア・フィードバックが学習者のライティング力・批判的推敲力に与える影響	4
講師	北村 有迅	地震・火山活動予測のための断層物質分析および温泉水モニタリング	5
アシリエイトフェロー	NAN YUQIONG	エスニック・コミュニティとダイバーシティ；主体性と協調性を兼ね備えた人材育成	6

遺伝医療の社会実装へ、医療のしくみをデザインする

大学院人間文化創成科学研究科 教授 三宅 秀彦

研究キーワード

遺伝医療 遺伝カウンセリング 出生前検査 難病医療

関連する SDGs



研究概要

現在の医療において、遺伝情報は病態の解明、診断、治療法開発など、実践に不可欠なものになっています。その一方で、遺伝情報による差別や、社会環境による医療格差などといった倫理的・法的・社会的課題（ELSI: Ethical, Legal, and Social Issues）も顕在化しています。こうした課題に対応するために、遺伝医療や遺伝カウンセリングの確実な社会実装が望まれています。これまで、出生前検査における遺伝カウンセリングの実装に向けた研究、難病ゲノム医療に対応した遺伝カウンセリング体制構築の研究を行ってきました。出生前検査に関する研究の結果は、現行の検査実施体制の整備に貢献し、人材育成にも活用されています。難病医療に関する研究では、遺伝カウンセリング体制の課題を明らかにしました。また、認定遺伝カウンセラーの業務範囲についての検討もおこなっています。

アピールポイント

医療社会学的な観点から研究を行っていますが、臨床の現場を意識し、実践に繋げることを重視しています。研究組織の構築においては、特定の診療科に限らず複数科の医師、認定遺伝カウンセラー、心理職、社会学者、統計の専門家など、多職種・他分野の専門科と連携し、学際的なアプローチによる課題解決を目指しています。

参考 URL

〈遺伝カウンセリングコース〉

<https://www.dc.ocha.ac.jp/m/life/gccourse/>

〈難病ゲノム医療に対応した遺伝カウンセリングの実態調査と教育システムの構築に資する研究班のページ〉

<https://www.dc.ocha.ac.jp/m/life/gccourse/coursemeu/researchgroup.html>

認定遺伝カウンセラーによるヒトの遺伝に関する教育啓発

大学院人間文化創成科学研究科 講師 佐々木 元子

研究キーワード

認定遺伝カウンセラー、遺伝カウンセリング、遺伝教育、がん教育、カンボジア

関連する SDGs



研究概要

近年、個人のゲノム情報を医療や健康管理に活用する「ゲノム医療」への期待が高まっています。特に、ゲノム医療を受ける人々に対して正確な情報を提供し、自己決定を支援する「遺伝カウンセリング」の重要性が増し、この分野での専門的な人材の育成が求められています。認定遺伝カウンセラーは、遺伝医学に関する情報提供や心理的支援を行う対人援助職であり、本学では20年以上にわたりその育成に取り組んでいます。大学院にて新たな職種である遺伝カウンセラーの育成に努め、学生と共に遺伝カウンセリングの心理社会的な研究や教育プログラムの開発を行っています。また、ゲノム医療の普及に伴い、遺伝情報の取り扱いや家族への影響を考慮した国民全体のヒト遺伝リテラシー向上も重要です。このため、ヒトの遺伝教育啓発に関する研究にも注力しています。



アピールポイント

大学病院での認定遺伝カウンセラーと、中学校・高等学校での理科教員の両方の経験を活かし、学校教育におけるヒト遺伝教育に積極的に取り組んでいます。特に、科研費を取得し、カンボジアでの教育活動を展開するなど、国際的な視点を持った取り組みを行っています。最近、中学校・高等学校の「保健体育」カリキュラムに「がん教育」が組み込まれています。高等学校でのがん教育に関する外部講師としても活動し、「遺伝子の変化によって引き起こされるがん」と「遺伝性腫

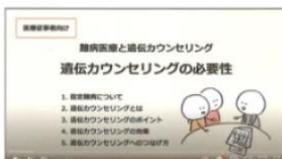
研究紹介集 2025

「場」の違いについても学ぶ機会を提供しています。私の経験を通じて、科学的知識を伝え、健康意識の向上に寄与することを目指しています。

難病診療における遺伝カウンセリング 医療者向け 動画教材のご紹介

令和元年度～令和3年度厚生労働科学研究「難病ゲノム医療に対応した遺伝カウンセリングの実態調査と教育システムの構築に資する研究」研究班では、難病医療における遺伝カウンセリングの動画教材を作成しました。

本動画では、遺伝医療を専門にしていなくても医療者を対象とした初学者向けの内容になっています。YouTubeでご覧いただけますので、個人での学習だけでなく、院内研修会などにもご利用下さい。

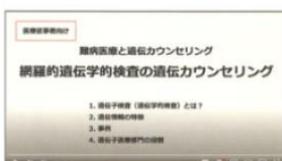


動画 1
遺伝カウンセリング
の必要性



難病医療における遺伝性疾患の影響、遺伝カウンセリングの概要、遺伝医療の専門家との連携などについてコンパクトに学べる内容になっています。(14分31秒)

動画URL <https://youtu.be/exBhGPEWyeQ> (QRコードからアクセスできます)



動画 2
網羅的遺伝学的検査の
遺伝カウンセリング



標準的な方法となりつつある網羅的遺伝学的検査における遺伝カウンセリングについて、検査の手順とともに学べる内容です。(11分15秒)

動画URL <https://youtu.be/uFaCyBGCFKA> (QRコードからアクセスできます)

著作権は本研究班に所属します。
営利利用目的での上映、動画の内容の改変、無断引用は禁止します。
引用の際は、本研究班のクレジットをいれてください。

お問い合わせ先
難病ゲノム医療に対応した遺伝カウンセリングの実態調査と教育システムの構築に資する研究班
(研究代表者:お茶の水女子大学 三宅秀彦)
E-mail: ocha-gcc@cc.ocha.ac.jp

「難病ゲノム医療に対応した遺伝カウンセリングの実態調査と教育システムの構築に資する研究」 研究班にて作成した動画教材



カンボジアのサマキー高校にプロジェクターを寄贈しました

参考 URL

〈遺伝カウンセリングコース〉

<https://www.dc.ocha.ac.jp/m/life/gccourse/index.html>

ピア・フィードバックが学習者のライティング力・批判的推敲力に与える影響

外国語教育センター 講師 富山 由香子

研究キーワード

L2 Writing(第二言語ライティング), Peer Feedback(ピア・フィードバック), Automated Writing Evaluation(自動採点)

関連する SDGs



研究概要

英文ライティング授業におけるピア・フィードバック (PF) の効果を、1)学習者の意識、2)PF や修正の内容、3)フィードバック前後の成果物の質、の観点から研究しています。

学習者は、効果的なフィードバック、読み手意識の向上、協同の学び、相手の英文や取り組み方からの刺激等を PF のメリットとして感じています。

一方弱点として、1)改善点の指摘が得られない可能性、2) 学習者同士の指摘に伴う限界、3) 相手の英文の質を下げる可能性を挙げ、他のツール (自動採点や文法チェックツール) との併用を支持しました。学習者の振り返りの分析からは、PF は「賛辞」よりも「改善点の指摘」が多く、PF の経験を積むにつれ、改善点の指摘の比率が上昇したことが判明しました。コメントの8割以上が修正に採用され、修正箇所の過半数が PF 由来でした。PF と自動採点はどちらも英文の質の向上につながりましたが、PF 群の方が自動採点群に比べ、多くの側面で質の向上をもたらすことが示されました。PF は自動採点に比べて、全体と「内容」面の修正件数が多く、修正件数は成果物の質の向上と中程度から高い相関があることも判明しました。

アピールポイント

本研究は、様々な角度 (学習者の意識、学習者の修正行動、成果物の質変化) から、PF と自動採点を比較し、PF の効果を検証したものです。ともすれば、ただ「書く」ということになりがちな英文ライティングの授業ですが、PF を取り入れることで、学習者同士の学びあいや批判的思考の機会が増え、結果として、自律的で深い学びが得られることが示唆されました。

今後は、ChatGPTをはじめとする AI によるフィードバックの利用や、PF との併用などにつき、実践と研究を深められたらと考えています。

参考 URL

<研究者情報>

https://researchers2.ao.ocha.ac.jp/html/200000420_ja.html

<科研費基盤研究(C)「ピアレビューが学習者のライティング力・批判的推敲力に与える影響」>

<https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-20K00772/>

地震・火山活動予測のための断層物質分析および温泉水モニタリング

教学 IR・教育開発・学修支援センター 講師 北村 有迅

研究キーワード

地殻流体, ラドン濃度, 地球化学,
海洋地質学, 分析機器開発

関連する SDGs



研究概要

- 四国や九州を形成する付加体と呼ばれる地質体にはプレート境界の化石とも言える変形した岩石が含まれています。これらの岩石は数千万年前のプレート境界で海溝型巨大地震を起こしていた岩石そのものです。現在は海底のさらに地下深くで起きる現象の結果を直接観察し分析することで地震発生時の物理化学過程を紐解きます。
- 地震多発地帯の海底斜面では海底地すべりが発生します。南海トラフや熊本地震の震源断層延長の八代海などで海底堆積物を採取して海底地すべりの痕跡を探します。
- 地震や火山の活動は地殻の応力状態を変化させます。温泉水は時に敏感に地殻活動の変化に対して流量や成分を変化させます。私たちは特に温泉水中のラドンの量に着目し、地殻活動のモニタリングを試みています。そのために水中ラドン濃度の自動連続観測装置を開発し、地震や火山の活動との相関について研究しています。



平成 28 年熊本地震後に実施した
研究航海と海底堆積物コア試料



温泉水成分分析による
断層・火山活動などの地殻変動研究

アピールポイント

野外地質調査に基づく地質図作成や試料採取, 室内での観察(肉眼, 光学・電子顕微鏡, 原子間力顕微鏡), 各種微量科学組成分析(SEM-EDS, EPMA, XRF, XRD, イオンクロマトグラフ, ガスクロマトグラフ, 質量分析器 etc.), 有孔虫等微化石分析など様々な分析を行ってきました。2016年熊本地震の発生を受け日奈久断層帯八代海区間の調査のため研究航海を立案しPI・主席研究者として実施しました(白鳳丸 KH-18-3 次研究航海)。現在開発中の水中ラドン濃度自動連続観測装置は特許出願済みです。主に南九州において時空間的に稠密な温泉成分分析を行っています。温泉成分の変動を把握することは温泉の付加価値を高める戦略にも寄与します。現在も温泉施設様と協力してモニタリングを行なっております。

参考 URL

<研究者情報>

https://researchers2.ao.ocha.ac.jp/html/200001164_ja.html

エスニック・コミュニティとダイバーシティ -主体性と協調性を兼ね備えた人材育成-

学生・キャリア支援センター アソシエイトフェロー NAN YUQIONG

研究キーワード

エスニシティ、ダイバーシティ、中国朝鮮族、日本、高齢者福祉；人材育成、主体性、協調性、リーダーシップ

関連する SDGs



研究概要

・エスニック・コミュニティとダイバーシティ
〈2011-2022〉

中国の深セン市、青島市、燕郊鎮に国内移動した中国朝鮮族のエスニック・コミュニティの形成におけるグローバル、ナショナル、エスニック面の力動とメカニズムについて研究した。

〈2022-2024〉

中国の北京市に国内移動した中国朝鮮族の高齢者福祉について研究した。

〈2024-現在〉

日本における中国朝鮮族のエスニック・コミュニティと日本の地域社会との関係について研究を行っている。

・主体性と協調性を兼ね備えた人材育成

〈2021-現在〉

お茶の水女子大学の教育寮での仕事関連で、大学における主体性と協調性を兼ね備えた学生（スタッフ）の養成方法について実践をし、論文にまとめた。

アピールポイント

・エスニック・コミュニティとダイバーシティ

移民コミュニティと受け入れ社会との相互理解の増進、相互連携方法の模索に貢献できる。

・主体性と協調性を兼ね備えた人材育成

主体性と協調性を兼ね備えた人材の育成法、マネジメント法、リーダーシップについて、産業界と連携し、貢献できる。

参考 URL

〈研究者情報〉

https://researchers2.ao.ocha.ac.jp/html/200000761_ja.html